

2020/9/24-2

(うとQ世話し 本日の観察スケッチ その2 よもや取り間違えませぬように)

よもや成功話などを傾聴し過ぎないように。

成功談というものは、語っている本人すら気づかない誤認識、勘違い、脚色 (story teller 化や更には美化美学) が入っているものだからです。

原因は、聞く人にとって分かり易くしよう、インパクトあるものにしよう、面白くしようという無意識のサービス精神が働くからです。

悪く言えば「サービス精神という名のカッコつけ」

それに比べて身近にいる「しくじり先生」の失敗談は有用です。

警句、警鐘や思わぬヒントに満ち溢れています。

しかもこちらの方が成功談によく有り勝ちな嫌味がない分、本当にオモシロくて聞き易い。だから「失敗はたくさんしろ」

というのはこのことです。

どんどん知恵やユーモアが積み重なっていくからです。

反対に成功談ばかり傾聴したり収集したりして、そのエッセンスを見出そうとする試みは無駄に終わると思います。

何故ならいつも申し上げておりますように

「失敗は成功の母」ですが

「成功は (まさにその瞬間から) 失敗の母」

になっているからです。

よもや取り間違えませぬように。

(注: 成功談のエッセンスという魔法の杖一本を探すより、失敗談の中に散りばめられた数ある警句、警鐘をこまめに集め、活用する方がなんぼか得です)

ですから、ニューノーマルを見出すためには、一刻も早く失敗、失敗談、失敗者の「重み付け」が飛躍的に上がることを望んでやみません。

そうでないと、失敗者が浮かばれませんし、折角の失敗というお宝が無駄になりますから。

以上、

本日の観察スケッチでございました。